No.169　invasive lobular ca.　　熊本中央病院　岡本真衣

① 症例；70 歳代、女性

② 既往歴；高血圧、不整脈

③ 臨床経過；2-3 日前から左乳房腫瘤を自覚し、近医受診。皮膚の引きつれを伴う 3-4cm の腫瘤を認め、乳癌疑いで精査加療目的に当院紹介受診

④ 材料；乳腺穿刺吸引細胞診

⑤ 細胞診所見；細胞採取量は多くきれいな背景に、結合性が強く乳頭状または不規則重積性を有する細胞集塊を多数認めた。腫瘍細胞は小型で核の大小不同を有し、集塊辺縁には細胞のほつれを認めた。細胞質はライトグリーン好染性で細胞境界は薄い線で確認できる。核は類円形で大小不同を顕著に認めた。クロマチンは繊細で増量、明瞭な核小体を有していた。中には、結合性の弱い小型の腫瘍細胞が直線状に数珠状配列を呈し、小集塊状に出現している箇所もありました。

⑥ 組織所見；リンパ球、形質細胞その他の散在性炎症細胞浸潤を伴った脂肪織、線維化巣内広範囲に腫瘍細胞の索状増生、浸潤像がみられた。腫瘍細胞は小型から中型で孤立散在性に増殖し、線状配列を呈していた。核は円形で大小不同、淡好酸性胞体を有し、二相性は完全に消失していた。乳管内にも浸潤像を認めた。

⑦ 鑑別点

線維腺腫；良性腫瘍で多数の背景裸核および粘液腫様間質集塊を認め、筋上皮細胞との二相性を呈する。

乳頭腺管癌；今回の症例と比べると乳頭腺管癌の方がやや細胞が小さく、核クロマチンが粗い。不規則重積性が目立つのに対し、今回の症例は結合も緩く、クロマチン繊細、個々の細胞境界も判断できる。

充実腺管癌；腫瘍細胞の結合性が弱く、多数の散在性細胞を認める腫瘍。

硬癌；くさび状配列が代表的な細胞像。間質結合織の著しい増生によって腫瘍細胞は圧排されるため、線状配列の辺縁は直線的であり、核も楕円形～紡錘形を呈し、縦並びの傾向を示します。

小葉癌；間質結合織の増生が乏しいため、線状配列は数珠状で、核も円形～楕円形を呈する。ICL を高頻度に認める。

アポクリン癌；平面的配列を示す細胞集塊で、一部に不規則な重積も観察される。
細胞質はレース状で細胞質内にはライトグリーンまたはオレンジ G に好染するアポクリン顆粒が見られ、N/C 比の低い腫瘍細胞が特徴的です。

SPC；豊富な細胞量で、線維血管性を軸とする乳頭状集塊が出現。腫瘍細胞は単調な出現パターンを呈し、顆粒状細胞質、核偏在した形質細胞様細胞が出現します。

文献

乳腺細胞診カラーアトラス、乳腺細胞診断の進め方、カラーアトラス乳腺細胞診、細胞診カラーアトラスサイトズーム